

2020年度活動報告

(出版者 / Publisher)

法政大学国際日本学研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

国際日本学 / INTERNATIONAL JAPANESE STUDIES

(巻 / Volume)

19

(開始ページ / Start Page)

157

(終了ページ / End Page)

161

(発行年 / Year)

2022-02-10

2020 年度活動報告

法政大学国際日本学研究所 (HIJAS) が 2020 年度に行った主催事業、研究会、共催事業などの概要は以下の通りであった。

各詳細については、HIJAS のウェブサイト (<https://hijas.hosei.ac.jp/>) に掲載されている。

I 第 6 回ヨーゼフ・クライナー博士記念・法政大学国際日本学賞

本賞はヨーロッパを代表する日本研究者であり、法政大学国際日本学研究所 (HIJAS) の設立以来、その発展に貢献してきたヨーゼフ・クライナー博士の功績を称え、若手の海外日本研究者の活動を奨励する目的で HIJAS が 2014 年に創設したものである。

第 6 回については、厳正なる審査の結果、該当者はなかった。

第 7 回については、2021 年 7 月 31 日 (土) を締め切りとして、募集を行っている。

II 研究会

私ども法政大学国際日本学研究所は、文部科学省 21 世紀 COE プログラムに「日本発信の国際日本学の構築」が、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業 (学術フロンティア推進事業) に「日本学の総合的研究」が同時に採択された 2002 年に設立された。

これらのプログラムが終了した 2007 年からは、同じ学術フロンティア部門で、新プログラム「異文化研究としての日本学」が採択され、国際日本学の構築に引き続き取り組んできた。また文部科学省による新たな「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(2010 年度～ 2014 年度) にも、「国際日本学の方法に基づく〈日本意識〉の再検討－〈日本意識〉の過去・現在・未来」が採択され、

それらを中心に引き続き国際日本学確立のための研究活動を続けている。

そうしたなかで、本研究所が初めて提唱した「国際日本学」という学問分野は国内外において一定の認知を得ることができたと考えられる。日本研究において古い歴史を誇る国際日本文化研究センターが中心になって設立された「国際日本研究」コンソーシアムにも当初から参画し、様々な形での研究連携によって新たな展開もみえてきた。経済学、政治学、社会学、人類学を主な対象とする Social Science International Japanese Studies (SSIJS、国際日本学における社会科学)の観点からの研究は、特殊日本的と思われがちな日本の現象を普遍化する可能性があることから、対象を日本としながらも、他の国や地域で同様の現象を発見する研究にも力を注いでいきたい。

2020年度HIJAS主催の研究会・ワークショップ等を3回開催したうちの1回はこの「新しい「国際日本学」を目指して」と題した企画であった。

1 研究会「日本の『グローバルな60年代』とコスモポリタン・パブリクス」

開催日時：2020年10月9日（金）10時から12時

会場：オンライン実施

報告者：高田圭（法政大学国際日本学研究所専任所員）

司会：横山泰子（法政大学国際日本学研究所長・理工学部教授）

2 第3回アルザス・日欧ワークショップ／2020年度国際新世代ワークショップ「越境する日本語・日本文化—言語文化の多様性をもとめて—」

開催日：2020年11月6日（金）・7日（土）・8日（日）（3日間）

開催時間：各日17時00分から21時30分（日本時間JST）

会場：オンライン実施

主催：法政大学国際日本学研究所（HIJAS）、「国際日本研究」コンソーシアム（CGJS）、アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）

プログラム：

- （1）第一日 2020年11月6日（金） 司会：安孫子信（法政大学〔日本〕）
 - ・基調講演1：坪井秀人（国際日本文化研究センター〔日本〕）／「世界文学と日本語文学」

- ・ 報告者（若手研究者・発表順）：石黒秀昌（フランス国立東洋言語文化学院 [フランス]）、ガッド・ハイ・ゲルショニ（名古屋大学 [日本]）、ルイーゼ・ラウス（東京芸術大学 [日本]）、篠崎久里子（ストラスブール大学 [フランス]）

(2) 第二日 2020年11月7日（土） 司会：ジョセフ・キブルツ（CNRS-CRCAO [フランス]）

- ・ 報告者（若手研究者・発表順）：葉曉瑤（総合研究大学院大学 [日本]）、尹芷汐（大阪大学 [日本]）、シルケ・ハスパー（ハイデルベルグ大学 [ドイツ]）、房改娥（大阪大学 [日本]）

(3) 第三日 2020年11月8日（日） 司会：坪井秀人（前出）

- ・ 基調講演2：鈴木裕輔（名城大学 [日本]）／「越境するものが超えるものと超えないもの—漫画『鬼滅の刃』における多様性の構造」
- ・ 報告者（若手研究者・発表順）：フェリッペ・アウグスト・ソラレス・モッタ（大阪大学 [日本]）、アレクサンドラ・ローランド（デュースブルグ・エッセン大学 [ドイツ]）

- ・ 総括討議

司会：安孫子信（前出）

コメンテーター（講評順）：黒田昭信（ストラスブール大学 [フランス]）、ジョセフ・キブルツ（前出）、レギーネ・マチアス（CEEJA [フランス]）、小口雅史（法政大学 [日本]）、エーリヒ・パウエル（CEEJA [フランス]）、サンドラ・シャル（ストラスブール大学 [フランス]）、高橋希実（ストラスブール大学 [フランス]）、高田圭（法政大学 [日本]）、坪井秀人（前出）、鈴木裕輔（前出）

3 新しい「国際日本学」を目指して（9） 公開研究会「故郷にとっての移民——占領期の広島と在米広島県人の貿易業者」

開催日：2021年2月24日（水）14時から15時30分

会場：オンライン実施

主催：法政大学国際日本学研究所

報告者：川口悠子（法政大学理工学部准教授）

コメンテーター：根津朝彦（法政大学国際日本学研究所客員所員，立命館大学産業社会学部准教授）

司会：横山泰子（法政大学国際日本学研究所長・理工学部教授）

Ⅲ 共催事業

2020年度はHIJASによる共催事業が1件あった。

1 シンポジウム「漢陽と江戸東京 それぞれの暮らし」

開催日：2021年2月20日（土）13時から18時

会場：オンライン実施

共催：法政大学江戸東京研究センター，国際日本学研究所

プログラム：

- ・趣旨説明 小林ふみ子（法政大学）
- ・発表1 18世紀の江戸と漢陽における舞台芸能の諸要素―「演奏と踊り、そして芝居」の章から
土田牧子（共立女子大学）
ディスカッサント：山田恭子（近畿大学）
- ・発表2 18－19世紀の漢陽と江戸の市場、その中を覗いてみる―「市場にはあらゆる食べ物と詐欺師、そして語り手」の章から
金美眞（韓国国立芸術総合学校）
ディスカッサント：金谷匡高（法政大学）
- ・発表3 園芸文化で比較する漢陽と江戸―「花を育て、木を植える」の章から
市川寛明（江戸東京博物館）
ディスカッサント：横山泰子（法政大学）
- ・発表4 江戸、漢陽にみる花見と遊山―「花見はここで」の章から
鄭敬珍（檀国大学校）
ディスカッサント：高村雅彦（法政大学）
- ・総合討論 司会：小林ふみ子（前出）
染谷智幸（茨城キリスト教大学），田中優子（法政大学）

Ⅳ その他

1 HIJAS 新所長の就任

2020 年 4 月に横山泰子氏（理工学部教授）が HIJAS 新所長に就任した。

2 HIJAS フライヤーの作成

2020 年 10 月に「法政大学国際日本学研究所」の新しいフライヤーが発行された。

3 「令和 2 年度青森県文化賞」受賞報告

小口雅史 HIJAS 前所長（文学部教授）が青森県の「令和 2 年度青森県文化賞」を受賞した。

4 「令和 2 年度秋の外国人叙勲」受章報告

サルキソフ・コンスタンチン客員所員が令和 2 年度秋の外国人叙勲において旭日中綬章を受章された。